

第16回諏訪東京理科大学公立化等検討協議会 会議録（概要）

日時：平成29年7月13日（木）

午後3時45分～午後4時50分

場所：諏訪市役所 議会棟別棟3階 第1委員会室

【出席者】

岡谷市：今井市長、岡本企画課長
諏訪市：金子市長、前田企画政策課長
下諏訪町：青木町長、伊藤総務課長
富士見町：小林町長、伊藤総務課長
原村：五味村長、宮坂総務課長
長野県：青木私学・高等教育課長、小林企画幹兼課長補佐
柳沢諏訪地域振興局企画振興課長、神林主査
茅野市：柳平市長、樋口副市長、柿澤企画部長、
加賀美大学準備室長、内山室長補佐兼係長、牛山係長、金井主事
大学：唐澤理事長予定者、河村学長予定者
（学校法人東京理科大学）森口理事長特別補佐
（諏訪東京理科大学）入江事務部長、牛山次長
広域連合事務局：松崎事務局長、林企画総務課長

【公開・非公開の別】

公開

【会議内容】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ 茅野市長
- 3 報告事項
 - (1) 第15回諏訪東京理科大学公立化等検討協議会の会議結果について
《事務局（茅野市）から報告「資料1」》
 - (2) 平成29年第1回諏訪広域公立大学事務組合議会臨時会の議決状況について
《事務局（茅野市）から報告「資料2」》
 - (3) 第4回公立大学設立準備委員会の会議結果について
《事務局（茅野市）から報告「資料3」》

質疑応答 報告事項について

質疑なし

4 協議事項

- (1) 公立大学法人設立認可申請（案）について
《事務局（茅野市）から説明「資料4」》

質疑応答 公立大学法人設立認可申請（案）について

（会長：茅野市長）

この案件については、意見や質問はあるか。

（各委員）

なし。

（会長：茅野市長）

資料を整えて7月下旬～8月上旬の予定で、認可申請をしていきたいのでよろしくお願ひしたい。

(2) 公立大学法人組織（案）について

《事務局（茅野市、諏訪東京理科大学事務局）から説明「資料5-1、5-2」》

質疑応答 公立大学法人組織（案）について

（会長：茅野市長）

資料5-1、5-2について、意見や質問はあるか。

Q. 大学の入試や奨学金の管理などの事務はどの組織が行うのか。

A. 事務部の担当課を中心に行っていく。実際には、大学全体として教員を含めた委員会を設置し検討をしていくようになる。

（会長：茅野市長）

今回提示したような組織体制で進めていきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

(3) 公立大学法人事務部の組織及び職員数について（案）

《事務局（茅野市）から説明「資料6」》

質疑応答 公立大学法人事務部の組織及び職員数（案）について

（会長：茅野市長）

事務部の職員として9名を新規採用しなければならないが、10月頃に採用試験を行っていきけるよう詰めていきたいと思っている。この件に関して質問や意見はあるか。

（各委員）

なし。

（会長：茅野市長）

それでは、職員の新規採用に向け必要な準備を進めていきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

(4) 公立大学法人中期目標（草案）について

《事務局（茅野市）から説明「資料7」》

《補足説明》

（公立大学法人公立諏訪東京理科大学理事長予定者）

中期目標の目次を見ると、まず「はじめに」と「基本目標」があり、次に中期目標の期間や組織について、教育研究等の質の向上に関する目標について、管理運営の改善及び効率化に関する目標についての3項目が書かれている。

初めての公立大学設立であるので、従来ある公立大学や国立大学の中期目標の項目に沿った組み立てをして草案として提出させていただいたが、この項目立てについては、これに従わなければならないということではないので、やはり諏訪広域で作る公立大学として、目次の項目立てを見て諏訪東京理科大学はこんなところを目指しているんだ、ということがわかるように組み立て直したいと思っている。そういう意味では、2ページ目の「はじめに」と、「基本目標」の3項目があり、自ら将来を開拓できる主体性のある人材を育成して輩出していくということと、地域にどのように貢献していくということがあるので、諏訪圏あるいは長野県に貢献していくという部分を明確にするように目標立てをしていきたいと思う。

また、資料7別紙の公立大学設立準備委員の意見なども踏まえて、組合の附属機関である評価委員会の委員が、この大学はこういうところを目指している、というところがしっかり判断できるような、そういう項目立てに見直しをさせていただき、今後提案をさせていただきたいと思う。

（会長：茅野市長）

私自身も公立大学設立準備委員会に参加したが、もっともな意見であると思った。良い意味で尖った、諏訪東京理科大学らしい中期目標にしていくということが大事であり、それがまたわかりやすいということにも繋がっていくかと思う。

中期目標について、今回示したものは草案であるので、公立大学設立準備委員会や今日の検討協議会の委員からの意見を参考にもう少し練り込んで組立て直していきたいと思う。

質疑応答 公立大学法人中期目標（草案）について

Q. 中期目標はどのような人が目にするようになるのか。受験生が目にするのか、保護者が目にするのか、学長や教授たちが目にするのか、事務の人が目にするのか。

A. 基本的には設立団体である組合から公立大学法人に対する要望事項であるので、諏訪広域公立大学事務組合がしっかりと見ていく必要がある。また、諏訪地域6市町村長から見て、中期目標が本当に合っているかということも見ていく必要があると思う。市町村長の目線でどうかということが必要かと思う。

(補足) それに付け加えて、WEBで公開するので全国の高校生等をはじめ様々な人に見ていただけたらと思う。

(意見) これだけの文章を全て読む人は多くはないと思う。この中期目標のダイジェストのようなものも必要になってくるかと思う。

(意見) 基本的には受験生や保護者が見ることになると思う。この中期目標に何を目指す大学かということとをわかりやすく具体的に記載していくことが大事だと思う。

(意見) 構造としては、まず中期目標があり、それを受けて大学側で中期計画を作っていく。そして、中期計画は中期目標をさらに具体化させていくということであるので、その二つをどのように整理し、どのように書き分けていくかということがポイントになる。やはり、中期目標は大きなものであり、詳細に書き込みすぎなものではないと思うが、委員の意見にもあるように、ある程度は具体化していく必要があると思うので、そのあたりのバランスは考えていく必要がある。

(意見) 率直な感想として、公立大学ということ意識しすぎて地域志向が強すぎるのではないかという印象がある。しかし、入学料設定の検討の中で地域によって差を設けないという意見が多くあり、そういった意味でも、もちろん地域に貢献をしてもらいたいというのはあるが、それを超えて世界から人材を集め世界に送り出す、といったダイナミックな部分も欲しいと思う。

恐らく都会の大学も、厳しい中で、学生確保などについて力を入れて取り組んでいる。それに比較し、この地方の大学がここで頑張っていこうとするのであれば、例えば、八ヶ岳の裾野の雄大な自然の中で学生の人間性を育むといったような、都会に無い優位性のようなものを前面に打ち出していければ良いと思う。八ヶ岳で登山をしたり、諏訪湖でボートを漕いだり、そういう経験の中で人間性を養い、雄大な自然の中でダイナミックな人材を育てる、といったような表現があると少し魅力的な大学に見えてくるような気がする。そういったことを中期目標に記載すると、カリキュラムポリシー等に連動してくることになる。せっかく新しい地方の大学としていくので、少し風呂敷を広げ、そういった表現があったら良いかと思う。

また、「主体性の確立した」という表現について、人間はいつまでも成長していくと思うので、「主体性のある」というように、もう少し未来にも余地を残した表現の方が良いかと思う。それから「人材を育成し、地域に送り出す」となっているが、地域もちろんそうであるが、諏訪東京理科大学を卒業した学生が日本や世界で活躍することも良いことであるので、小さくコンパクトにならない表現を期待したいと思う。

また、「研究を通して地域産業と文化の振興に取り組み、人を地域に集め、地方創生の拠点となる。」という表現について、先ほどの地域にこだわりすぎではないかという部分になるが、例えば、逆の見方をして、「地域の産業や文化を積極的に取り込んで、世界で通用する人材を育成する。」といったような表現に変えることによって、同じことを言うとしても魅力的に見えるのではないかと思う。

Q. アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーは、大学の具体的な取組を行うに当たって必要となってくるが、それぞれの具体的な部分はこれからということによいか。

A. そうである。

Q. 「唯一の工学系大学として」という表現があるが、「工学系」というのではなく「理工系」ということはできないのか。

A. 信州大学の理学部が松本にあるため、「理」を入れることができない。

(意見) こういった目標などを作るときにはKPIを作ると思うが、何をKPIにしていくかとなった時に、この地域への就職率というのがひとつあると思う。折角この地で勉強をしても都会へ出て行ってしまわないようでは地方創生にも繋がっていかないとと思う。KPIの一つとして、定着率を目標値に入れていただきたいと思う。

また、「グローバル」について、例えば、海外の学生を入学させるかどうか、また、目標は何人としていくかを考えていく必要があると思う。大学がグローバル化するというのは、入口と出口の両方の部分も考えていかなければならないと思う。人材の交流という観点で人の出入りも目標値としていただきたいと思う。

もう一つは、やはり大学の知的レベルをある程度保たなければならないと思う。ハイレベルを保っていないと、就職も魅力もいまいちということになってしまう。また、入学試験の倍率も常に2～3倍を確保するといったことや特許をどれだけ持つというように、具体的なKPIを目標値に入れたら良いと思う。

(回答) そういった部分については、中期計画の方で対応していく項目になる。

(回答) 中期計画の方でKPIを入れている。中期目標と連動して今後報告させていただく。

中期目標については、委員の意見を踏まえてもっと書き込んでいきたいと思う。また、八ヶ岳や地域を学生たちに知らせる「地域から学ぶ」ということについては、既にカリキュラムの中に入れておいており連動もしているので、そういったことも中期目標に書き込んでいきたいと思う。

また、研究成果についても、ただ地域に役立つということではなく、「はじめに」にも記載してあるように、「我が国の将来の発展にも貢献できるような新しい技術発展に寄与する」ということであるので、もう少し記載内容を検討していきたいと思う。

(意見) 長野県でも知の拠点として支援したいと考えている。例えば、AIについて書かれているが、このAIによって職が奪われたりするとも言われている中で、6年間の中期目標を受けて育った子供たちが将来仕事を失ってはいけないわけであり、そういう意味では、6年の中期目標であるがさらに将来を見据えたものを描いていただけるとありがたいと思う。

(意見) 国際化について、この諏訪地域の企業もほとんどが海外と取引をしており、また、海外の工場を持っている。観光面でも海外からのインバウンドなどがあり、恐らくこの国際化あるいは人の交流というのは加速度的に増えていくと感じる。それも踏まえて、国際人にも物怖じしないような人材を育てていくことが重要であると思う。

(会長：茅野市長)

今日いただいた意見や前回の公立大学設立準備委員会でいただいた意見をうまく組み立てて、中期目標の案を作成していきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。この中期目標については11月の議会に上程し議決を得るといった案件になるのでそこを目指していきたい。よろしくお願ひしたい。

(5) 公立大学法人評価委員会の運営方法（案）について

《事務局（茅野市）から説明「資料8」》

質疑応答 公立大学法人評価委員会の運営方法（案）について

(会長：茅野市長)

公立大学法人評価委員会の運営方法について説明があった。なるべく早く設置し、この中期目標等への意見もいただきたいと思っている。6名で構成をしていきたいということで、構成案として今回の資料で示している。何か意見や質問はあるか。

Q. 委員の任期はあるか。

A. 3年である。

(会長：茅野市長)

なるべく早く設置できるよう事務局で準備を進めていくので、よろしくお願ひしたい。

(6) 公立諏訪東京理科大学の校章及びロゴマークの制作について（案）

《事務局（茅野市）から説明「資料9」》

質疑応答 公立諏訪東京理科大学の校章及びロゴマークの制作について（案）について

(会長：茅野市長)

校章及びロゴマークの制作について事務局から説明があったが、何か意見や質問はあるか。

(各委員)

なし。

(公立諏訪東京理科大学学長予定者)

審査委員会の委員に加えるかどうかは別として、審査の段階で学生の意見も聞いていければ良いと思う。

(会長：茅野市長)

学生にとっては母校になるので、学生の意向も反映していければと思う。それでは、資料のように進めていきたいと思うのでよろしく願いしたい。

(7) その他

5 その他

- (1) **大学設置者変更認可申請、学校法人東京理科大学寄附行為変更認可申請について**
《事務局（諏訪東京理科大学事務局）から説明「資料10」》

6 閉会